

桐鈴凜々

「雪どけの会」に参加して

桐鈴会評議員 井口美賀



8月15日、長岡市の「まちキヤンパス」で「雪どけの会」が行われました。これは、「最重度の障害児たちが語りはじめる時」（中村直樹著）で取材されている國學院大學の柴田保之先生が年2回、新潟県内でもコミュニケーションの講習会を開いて下さっているものです（もう1回は会場が新潟市）。県立村上特別支援学校いじみの分校の保護者の方が主催してくれています。お誘いを受けて、長男の健彦と参加しました。

は皆さん重い障がいを持ち、「言葉がない」と思われてきた方たちなのです。前述の本は読んでいたものの、実際どんな感じなのか、想像もできませんでした。会場に少し早く着いたので、目の前で行われている「対話」にも参加させてもらいました。「対話」と言っても、ストレッチャーや車椅子の方が8人ほど、無言で輪になっている中、話しているのは、柴田先生ともう一人、指談の通訳をマスターしている方。なごやかに、流れるように会話が進んでいました。このお二人が、参加者の指を支えて、自分の手のひらに書かれた文字を判断して通訳する「指談」によって、皆さんが会話しているということなのです。



桐鈴会の理念

・終のすみかを目指す
・「迷惑をかけ合える関係」を目指す
・「迷惑をかけ合える関係」を目指す
・高年齢者、しょうがいしゃ、子どもたちが安心して住める地域を創ろう



その対話が一区切り着いた所で、柴田先生が指談で長男の自己紹介を通訳してくれました。「僕は井口健彦です（名前は最初に伝えてあります）。僕はよくイケメンと言われますが、本当にそうか疑問です。僕はできれば結婚をしたいと思っています。」おおよそそんな内容を淀みなく通訳してくれました。

他にも、中途障がいの方などもいろいろと話し（通訳で）、その不思議な対話が終わりました。それから、個別の講習がありました。最初は筆談でした。

フェルトペンのような筆圧があまりいらぬペンで、ノートに書いていきます。健彦の手にペンを握らせてそれを介助者の手で包むように支え、脳性麻痺特有の不随意運動のためならぬ動きを逃がすように斜めにノートに当てて、文字を書かせます。「いぐちたけひこ」と書きました。次に私が支えて、数字を書いてももらいました。1や2は、字なのか、書き損じなのかという形でしたが、「3を書いて」と言われて書いたものは、3になるうとして書いている形でした。

次に柴田先生が、健彦は返事するときになぞくという動作をするかと私に聞いて、私は、そ



「僕、イケメンかな？」

私は、まるで夢の中のシーンを眺めている感じで、「？」という気持ち以外なにも心に浮かびませんでした。

ういうことはしないし、こちら
も考えたこともない、と返事を
しました。そのあと、健彦がキ
ーボードを使って入力しました。

このキーボードはパソコン
画面にあつて、マウスを使つて、
字を選び決定して、文章が出来
ていきます。マウスは、手のひ
ら全体でおさえ、指先と手首側
に軽く力を入れて画面上のカ
ーソルを動かし、入力する機能の
ものでした。このときは、健彦
がマウスを動かすのではなく、
健彦が選んだ文字を先生がマウ
スで決定して文章ができて行き
ました。「いぐちきいていいで
すかうなづきはなぜはいにつか
えないかわかりますかはいだけ
どそれがいいことばがな
いことになってしまいます」と
入力されました。もうこうなる
と、半信半疑の「疑」の割合が
増えてきました。



ただ確かなのは、失礼な言
いながら、先生も参加者もま
たくの大真面目。真剣というよ
りも、とても自然な雰囲気だっ
たことです（もちろん、初めて
の私はビックリしてばかりでし

たが）。

通訳のお二人は、指談がスム
ーズで対話も流れるようでした
が、あと一人、指談を勉強中の
女性がいて、その人の様子を見
せてもらおうと、とてもゆつくり
で、時には「読み取れませんか」
と言うこともありました。

ということ、この方もやが
ては他のお二人のように、スム
ーズな指談ができるようになる
のかな、それを目指しておられ
るのだなど、当然のことなのに、
なぜかそう思いました。きっと
信じられなかったから、不思議
に感じたのでしょうか。

私はそんなふうには半信半疑
でしたが、健彦はその時間中ず
っと落ち着いて、ニコニコして
いました。これには驚きました。
誰かの指談中には、それをちゃ
んと聞いていられるように見え、笑
うところでは一緒に笑っていま
す。

誘いを受けた時、個別指導が
一人30分なら、まあ健彦も我慢
していてくれるかな、という気
持ちでした。いつものように不
機嫌になって大きな声を出し、
部屋を出ることになるかなと思

っていたのに、結局、1時間半
ほどずつとその場に、いかにも
「参加して」いた感じでした。

帰りは、近くの



「アオーレ長岡」の
ベンチで、プリンを
買っておやつタイム
にしました。外で、
こんなふうと一緒に
過ごす事を今まで私

は避けていました。ずっと動い
ていないとすぐに不機嫌になる
からです。一緒のときはいつも
大概は移動していました。散歩
やドライブでした。

それが、おいしそうにプリン
を食べて周りを眺め、まだ、ニ
ニコしていました。これは、
きっと何か健彦の中で変化し
ているのに違いないと思いまし
た。満足感に浸っているような
笑顔。夕方、帰りを急いでい
ましたが、私もなにか満ち足り
た気持ちになっていました。

帰りながらいろいろ考えま
した。今日のこと、本当の事
ならばそれはもちろん素晴らし
いことだけど、仮に本当とは少
しずれていることだとしても、

例えば、少し思い込みが含まれ
ているとしても、続けていくこ
とには大きな意味があると思
いました。

「とんとん」に報告すると、
早速、筆談にとりかかってくれ
ました。親の半信半疑が恥ずか
しいくらいに、100%前向き
です。この頃は、「書きたい時」
があるらしく、その時には嫌が
らずに書いてくれること、職員
さんが「こう書いて」という言
葉ではなく、自分が書きたい言
葉で書くこと、などなど、送迎
のときに職員さんから様子を聞
くのがいつも楽しみでした。その
報告を聞いている健彦の表情も、
ニヤニヤと、「そうなんだよね
え」と言わんばかりに職員さん
と私を見比べているので、おも
しろいです。

利用しているほかの支援事
業所でも、ペンでの表現（筆談
や絵）や、サイン（タッチや挙
手など）による返事に取り組ん
で頂いています。根気がいるこ
とですが、少しずつでも気持ち
が伝えられるようになってきて
いるようで、とてもありがたい

です。

自分の気持ちを周りの人たちが知ろうとしてくれていて、ということが、健彦にもわかって来ているのかなと思います。

重い障がいがあっても、多くの人は何かを伝えようとしていて、こちらが理解しようとしてくれれば、それがたとえ始めは思い込みであつても、続けることでなにかしら伝わり始めると信じたいです。理解しようとする人や気持ちが悪くはない、障がいのあるなしにかかわらず、何も始まらないでしょう。

毎日、健彦と付き合っていると、ちよつとした物音で大暴れしたり、対応がわからないで暴れるままにして、どこかケガしていたりします。この子は何もわかっちゃいないし、そう思う自分もひどい親だと、イライラが募る場面もしよつちゆうです。ただ、講習を受けてからは、そういうときはこちらも余裕がなく、気持ちをわかっていなくて気がついたんだと、考え直して、言葉に出して謝れるようになりまし

家での筆談は、本人が拒否し

「あの日」から

～とんとんでの健彦さん～

工房とんとんでの井口健彦さんの姿が、あの日以来すっかり変わりました。それまでは、健彦さんとのコミュニケーションは表情や体の動きで読み取るぐらいでした。怒りだけは全身で表現します。怒った時はクッションチェアから飛び出て、歯を食いしばり、口から大出血をするなんて言うこともありました。言いたいことがあるのにわかってもらえない気持ちのボディランゲージだったのでしょね。あれ以来そういうことが全くなくなりました。とても穏やかに毎日を過ごしておられます。筆談で、厨房の櫻井に「プリンを作って」と書き、それが実現すると「ありがとう」と書いて、櫻井を感激の涙に浸らせました。自分の名前を漢字で書いたのには、一同びっくりびっくりでした。

工房とんとん管理者 星野淳子



たりこちらに根気がなかったりでなかなか出来ませんが、サインでの返事は時々試しています。これからも、気持ちを表現する力がついていって、もっと、自分の心の中のことについて教えてくれたらいいなど、期待しています。今まで、どんな気持ちで過ごしてきたのか。思春期と言われた年頃、全然眠らなくたってドライブばかりしていた心境。今、大好きなことは何なのか。将来どういう生活を望むのか。その他たくさん。とてもとても知りたいです。

退職の挨拶

「お世話になりました」

前工房とんとん看護師

大網エツ子

やっと、環境に慣れたところでしたが、私事の都合で退職いたしました。7か月という短い期間でしたが、皆様には温かく接していただき心から楽しんで働くことができました。これから看護師として、少しは力になれるかなと思っていました。お世話になったばかりでしたが、本当にありがとうございました。

工房とんとん ボランティア募集！！

厨房で調理のボランティアをしませんか？出し汁もいちから取っているおいしい食事を一緒に作りましょう。お待ちしております！



詳細はお問い合わせください。

電話 025-780-4150 担当：湯本

グループホーム桐の花

ボランティア募集

【内容】

- 傾聴・・・お年寄りのそばでお話を聞く・お話をする。
- 手工芸・・・お年寄りと一緒にモノづくりをする。
- 歌・踊りの披露・・・お年寄りに聞かせたり見せたりする。
- 掃除・・・施設内等、普段できないところなどをする。

詳細はお問い合わせください。

Tel. 025 (780) 4110

担当 管理者 糸山

グループホーム 桐の花
10周年
記念



桐の花計画作成担当者

関 和香子

平成16年10月23日に中越地震が発生。翌、24日、25日には桐の花の内覧会が予定されていましたが中止となり、思いもよらぬスタートでした。予定通り11月1日から受け入れを開始し今年で10年。一緒に喜び、自分たちの支援のあり方を考えさせてくれた利用者の方、温かく見守って頂き応援協力して頂いたご家族や地域、ボランティア、業者の方々など多くの方に支えられ、ここまで来られたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

昨年、鈴懸おはようヘルプ10周年茶会にお邪魔し感動。「私たちも手づくりの温かい感謝の会をやりたいね。」と意気込



和菓子バイキングで茶話会

んではいたのですが、研修が立て込み計画が進まず…。

開設当初の管理者の星野（現在は工房とんとん管理者）とスタッフ若井に助けってもらい、とんとん2周年感謝祭と合同で10月18日（土）に桐の花10周年記念祭となりました。

当日は運営推進会議を兼ね、2年前に行った全国在宅ネットワークの発表をさせてもらいました。（看取りを行う桐鈴会での家族の関わりと協力を考え、職員の思いや今までを振り返り、法人の理念を考えたものです。）その後のお茶会では、開設か



「もう会えないと思っていたのに…」と喜び合う遺族の方々

らの一人一人の思い出を語りながら、参加した方に感想や意見をいただき、夜勤職員の関勝造の三味線に合わせた市川竹安先生の艶のある唄を堪能し、利用者の方も一緒に楽しく有意義な時間になりました。

ここで最期を迎えられた方々のご家族も、忙しい中を駆けつけてくださいました。

几帳面で一本気、いっぱい叱られ、いっぱい頼られ、いっぱいありがとうをくれた、林ハナさん（今年3月に永眠）のご家族。

お茶目で、いつも頓知を利かせては流し目で職員を見て笑わせていた関キミさん（24年12月永眠）のご家族。

私の夫のファンで、居室に飾った写真を見ては「いい男だの。会いたいなの。お前さんからとってしまおうこつてら分らんよ。」と横を見て舌を出しておどけ、いつも穏やかで職員の癒しの存在だった森澤タケさん（23年8月永眠）のご家族。

家族を思い、娘さんの名前と奥さんをいつも呼んでいました。私たちの関わりを喜び「いいばっかだ！」と喜んでくれた水落吉雄さん（21年10月永眠）のご家族。

本当にありがとうございます。来て頂いた事に感激で、懐かしくて嬉しくて、ここで今まで働いていることを、本当に良かったと感じました。

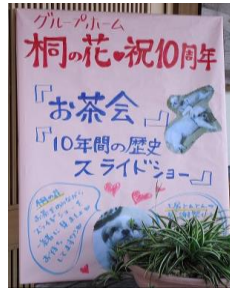
入居される方やご家族にとつて、ここでの生活は人生のわずかな時ですが、何でも言い合い、安心して過ごせる居場所であるように職員一同、力を合わせていきますので、これからも温かいご支援をお願い致します。

「温かく心打たれた10周年」
鈴懸おはようヘルプ

訪問介護員 上村久美子

桐の花10周年、おめでとうございませす。多忙な中での準備もお疲れさまでした。お隣同士でありながらなかなか交流する機会も少ないのですが、とても感動的な10周年に参加させていただきました。

看取りケアの発表で、亡き入居者の方を偲び、ご家族と職員が泣き笑いをしながら思い出を語り合う。その光景がひとつの大きな家族のようで、とても温かく、そして熱く心を打たれました。



お礼が遅くなりましたが、昨年のおはようヘルプ10周年の茶会では、入居者の方々から大勢お越しいただきましてありがとうございます。今度は20周年を目指し、共に頑張ってくださいませ！ヘルプのご利用もお待ちしております。



工房とんとん管理者

星野 淳子

10月18日(土)に「工房とんとんの感謝祭」と「桐の花の10周年記念」イベントを開催しました！

お天気にも恵まれた秋晴れの中、くるくるボンバーヘアやオレンジや紫のとんがり帽をかぶったメンバーや職員が彩りをプラス！！

ハロウィンなので「とんとん



感謝祭「ハロウィン気分で頑張ったぜ！」

ん」「すずカフェ」と声をかけるとお菓子のプレゼントを・・・というはずが、めぐい子どもたちを見て、とんがり帽子のホワイトさんは「ほら、食べな。」と大盤振る舞い。ハロウィンを通してメンバーとお客様との触れ合いを楽しみました。

すずカフェエイブルの前には「会計イケメンダンディー」と「プリティーお血渡し嬢」が待ち構え「セルプこぶし工房」

※(注)のおいしいハンバーグとコラボレートした「ハンバークー500円ランチ」を販売しました。2人のおかげで大好評につき即完売！（もちろんお味も最高でした！！）

また、夢草堂では「全品200円均一のバザー」と「パン販売」とんがり帽子とお寺というシチュエーション！！おお、ハロウィン！！と思っただけは私だけ？

夢草堂にも多くの来客者があり大賑わい。おかげさまでバザー品のご寄付やご協力のもと、総額185,520円を売り上げることができました。皆様に感謝申し上げます。今後とも、



夢草堂でのパン販売。「和」と「洋」の融合でした♡



精算はこちら！とんとんのメンバーさんの笑顔に心なごみます

工房とんとんをよろしくお願いいたします。
※(注) 南魚沼福祉会が運営。桐鈴会の工房「とんとん」と同様の作業所。

紅葉狩り紀行

ケアハウス鈴懸入居者

井上信吉



秋も深まり、鈴懸恒例行事の一つである10月21日(火)の紅葉狩りの日が近づいてきた。その日の天気予報は余りよくない。雨降りは嫌だなあと思ったが、運は天に任すよりほかない。その日が来たら案の定、雨。空を眺めながら支度をして外に出てみると大した雨でなく、傘もいらないくらいなので一安心。林施設長の運転する車で出発した。一村尾を過ぎ、山坂に差し掛かると秋の深まりを感じさせる風景があらちらちらと、目に飛び込んでくるようになった。紅葉して見えるところはほとんどウルシだろう。車窓からの景色を楽しんでいるうちにトンネルを抜けた。そこは天空の里、後山。近代まで村人を苦しめた峠越えも、今では数分で通過する。トンネルの利便さは計り知れない。

後山を過ぎ、蛇行する坂道を一気に呵成に国道252号線に合流して十日町市に入った。市内には、国宝や史跡もいろいろあるが、今日のコースではないので通過する。そこから上越市へ続く国道253号線に入ったが、松代まではほとんどがトンネルで、主なトンネルが吉田、鎧坂、名ヶ山、薬師の4カ所であった。この地域も峠越えをしなければ村々を行き来出来なかったことは容易に想像できたし、先人たちの苦勞を思いやると心が痛んだ。

今日目的地の一つである松代に到着したが、少し時間が早かったので道の駅でトイレ休憩を兼ねて買い物を楽しむことができた。ここから松代城のある城山一帯を見渡しても紅葉は進んでいないように見えた。道の駅近くの目的地であり昼食場所になっている、のう舞台?に到着。こののう舞台は私が期待していた能舞台ではなく、農舞台であることが分かった。私の聞き違いか聞かなかったのか少しがっかり。何故、農舞台なのか分からなかったが、展望

台が上がって始めて気が付いたのです。自分勝手な解釈であるが、農村を見、そして皆さんが制作したアートを見るための舞台ではなかるうかと。全てがアートであるとすれば納得がいきました。とは言え、私にとっては期待はずれの感は否めません。でも、それなりに楽しませていただいたことは事実です。農舞台を後に、253号線經由で次の目的地である六日町城内長森に整備された八海醸造の「里山」へと向かった。途中の林施設長の住居、(鈴懸入居者の)吉田さん、種村さんが以前住まわれていた住居の跡地を確認しながら第2の目的地「里山」に到着した。里山一帯に整備されている施設は思っているより立派で規模が大きいのに驚かされた。

飲んべいでもない私でも、見るものすべてが新鮮で豪華でしたが、商品の値段が高いのにはこれまた驚きでした。1日の短い小旅行でしたが、妻ともども楽しい思い出作りが出来ました。良い機会を与えていただき感謝です。ありがとうございました。

写真!?

時々小雨の中での紅葉狩りでしたが、あまりの楽しさに写真を撮ることも忘れ、お見せできないのが残念です。

(参加者一同、
総勢 13名)



大石亜矢子・大胡田誠夫妻の

トーク&コンサート

桐鈴会理事 広田セツ子

今年も大石亜矢子・大胡田誠夫妻がきてくださった。昨年、夢草堂でお二人のトーク&コンサートがあった。全盲のお二人が2人の子どもを育てながら、音楽家・弁護士として活躍している。夢草堂では、長女のころちゃん(2歳だった)が、野の花を摘んできて、歌うママにプレゼントしてコンサートは大いに盛り上がった。

今年、浦佐小学校と南魚沼市立総合支援学校での2公演で、私は支援学校の公演を聞きに行った。会場は児童生徒・地域住民でいっぱいだった。支援学校の生徒



夫のギターに合わせ、妻がピアノを弾きながら歌う「ありがとう」

の生徒たちがコンサートの一トの始まりをわくわくして待っていたので、それを

ライブの会場のように感じた。亜矢子さんは「世界で一つだけの花」を皮切りに、すぐに会場と一体になった。この夏大ブレイクした「ありのまま」(「アナと雪の女王」から)の前奏が始まった時にはもう、うわーという歓声で子どもたちの背中が音楽にのって揺れていた。

そのあと、大胡田さんが12歳の時に失明して弁護士になるまでの体験を子どもたちに話してくれた。「弁護士の試験に何度も受からず、もうだめかもしれ



ご夫妻へのお礼に小学部の生徒さんが、リズムに乗って踊ってくれた

ない、どうしたらいいかと悩んだ時、僕の母(故人)は、頑張れとか、こうしたら、とは言わず、あなたの心が温かいと感じるほうにいけばいいといってくれた。」この大胡田さんのお母さんの言葉がそのまま、会場の子どもたちや私たち聴衆へのメッセージとなった。

亜矢子さんが盲導犬のセラシア(この日は疲れをとるために、会場には来ていなかったが)をパートナーだと紹介し、自作の「私はセラシア」を今年も歌ってくれた。

もつともつとあそんで
もつともつと
触ってくんなきややだ
私はセラシア

この歌を聞いたら、セラシアが家族の一人としてなくてはな



支援学校の生徒さんからの花束贈呈

- らない存在であることが分かる。この歌の解釈は会場で話題になっていた。私の独断で次の三つに分類させてもらった。
- ① セロシヤになりきった作者の気持ち
 - ② 毎日弁護士の仕事で帰りも遅い大胡田さん。亜矢子さんがセラシアとともに大胡田さんに訴えている
 - ③ 家事・育児に、音楽家として多忙な毎日を送る亜矢子さん。大胡田さんがセラシアとともに亜矢子さんに訴えている。(わたしは③に1票)

ご夫妻共演は「グラッツィエ(ありがとう)」「(大石亜矢子作)」。大胡田さんのギターで、亜矢子さんがご両親にありがとうと歌う。

大石さん、大胡田さん、素敵なお日でした。ありがとうございました。

*大胡田誠著「全盲の僕が弁護士になったわけ」がテレビドラマ化します。12月1日(月)夜9時からTBS月曜ゴールデン特別企画、大胡田さん役は、松坂桃李。

「コンサート」&
「マジックショー」
桐鈴会を訪問!

◆コンサート
「まっちゃんカルテット」



ミニコンサート
桐鈴会 監事 鈴木智子

10月5日(日)午後2時30分より夢草堂で、まっちゃんカルテットのミニコンサートがありました。チェロ、ビオラ、バイ

オリン2の構成で、チェロの男性1名、女性3名で来てくださった。車から降りたメンバーをお出迎えましたら、女性お一人が視力障がいの方でした。その方がまっちゃんでした。まっちゃんはバイオリン奏者です。譜面は見えないので、すべて耳で聞いて覚えるそうで、他のメンバーは「まっちゃんはスゴイ！」と彼女を尊敬しているのです。音楽は全く素人の私ですが、リハーサルを聞いてこのカルテットの演奏にすっかり引き込まれてしまい、思わず夫に「とても素敵な演奏なので是非聞いてほしい」と電話してしまいました。本番は皆さんあでやかなドレスで登場して「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」に始まり、ジャズナンバーの「ムーンライトセレナーデ」でうっとりしたところで、みんなで歌をうたいました。

「湯の町エレジー」、「証城寺のためき囃子」、「月の砂漠」、「里の秋」、どの歌も懐かしく久しぶりに大きな声で歌をうたいました。「湯の町エレジー」では、まっちゃんが即興で哀愁たつぷりの伴奏をして「まっちゃんやっぱりスゴイ！」とメンバーから称賛されていました。クラシック、ジャズ、歌謡曲、童謡と様々な音楽を楽しみあつという間の1時間でした。鈴懸、桐の花、おひさまの入居者の方、地域の方が聞きに来てくださいましたが、もつと宣伝して多くの



左端がまっちゃん、右から稲垣、鈴木畑中さん

方に聞いてほしかったと反省しています。確かなテクニクと、音楽を愛する人たちの演奏は、どんな人たちをも魅了するのだなと思えました。ほんわか温かなコンサートでまた夢草堂に来てほしいとお願いし、お別れました。次回は多くの人に弦楽



「箱」の中は何？真剣な表情の今福さんと後ろで見つめる高林さん

器の生の音に包まれる体験をしてほしいです。
(チェロの稲垣憲治さんとピオラの鈴木玲子さんは、凛々96号で、桐の花職員の小川がレポートしたコンサートに来てくださった方でした)

◆マジックショー



10月13日(月・祝)東京からお二人のマジックショーが来てくださいました。今福進さんと高林満子さん、とても手さばきがよくて、「タネ」が全然わかりませんでした。入居者の皆さんが、しばし「不思議」の世界に浸らせていただくことができました。ありがとうございます。

インド旅行記②
「シュリナガル」
桐鈴会理事長 黒岩秩子

シュリナガルと言うジャンムー・カシミール州の夏の州都に行きました。冬はジャンムーが州都になります。毎年2回の引越しがあるそうで、大変な経費が掛かるそうです。それでもそうするのは、シュリナガルが、ほとんどイスラム教徒、ジャンムーがほとんどヒンズー教徒、と言うことで、政治的な配慮だということです。もともとカシミールと言うところは、インドとパキスタンの国境で印パ戦争の戦場だったところです。

この地では、とても不思議な体験をしました。着いたその日から運転をしてくれていたシャクルと言う28歳の青年が、2年前までサウジアラビアのリアド大学でコンピューター関係の講義をしていたというのです。とにかく電話がじゃんじゃんかかってきます。日本のように禁止されていないので、運転中の半分ぐらいの時間はケータイで話しています。案内してくれる

ところに降り立つと、彼を知っている人がとても喜んで彼と抱き合っています。

一体この青年は何者？ と言うことで、私たち4人は、色々

と想像しました。何を聞いても、実に的確な返事が返ってきます。

実は、私たちが泊まることにしていた民宿のマスターが「私の友達」と紹介してくれたのが、シャクールでした。この民宿は美味しい食事が出てきます。2日目も、私たちのリクエストでまたシャクールが来てくれました。

卓夫が彼に「ここでは年寄り
は寝たきりになったらどうなる
のか」と聞きました。「家族で見
ます」が彼の答え。そしてなん
と「僕の家は16部屋ある」と言
って見に来るか？と言うので、
喜んで行ってみました。彼のき
ようだいは男だけ5人、彼は未
っ子で、彼以外は皆結婚してい
る。この日、長男、次男、そし
てその子どもたち3人のほか、
彼の両親も、私たちを待ってい
てくれました。両親は、60、61
歳とのことですが、私たち夫婦
より年上に見えました。その上

のおじいちゃんもいるそうです。
長男と一緒にすぐ近くに住んで
いて、「二男の家もそこにあつて、
「家族で見る」体制が整ってい
るのでした。

ガイド兼運転手の彼が自分
の家に連れて行ってくれたこと
自体驚きでしたが、お茶とお菓
子を用意して、歓待してくれた
のでした。彼は、私たちと別れ
るとすぐに Facebook に写真を
載せました。

実は、彼の正体がわかったの
です。イギリスに留学していた
4番目の兄と二人で、シュリナ
ガル観光を立て直そうというこ
とで、2年前に帰ってきて、シ
ュリナガルのレストランと旅
行代理店を開いたのでした。彼
が、たびたび電話に出ていたの
は、その代理店のお客（世界各
国）からのものだったのでし
た。そして、私たちが泊まっ
ていた民宿も、彼の提案で家を改
装して2年前に始めたものでし
た。

この方々はみんなイスラ
ム教徒です。だから、困ってい
る人がいたら、金持ちが支える
というのは当たり前で、「あり

がとう」なんて言わないような
風土です。その代り、豚肉、酒
などはいけないことになってい
ます。それでも酒は売っていま
した。工藤さんが大好きなので、
ビールを買いに行ったら、小さ
な窓の周りにたくさんの方が群
れていて、買っている人の顔は



75歳の元校長と抱き合って

見えないようになっていました。
ムスリム社会では、酒は、いけ
ないからなのでしょうね。もう
一軒の酒屋さんも同じように小
さな窓でしたから。

私たちの泊まった民宿のマ
スターは、ムスリムなのにいつ
も酒を飲んでいるそうで、2日
目には、彼のためにもビールを

買っていききました。ところがそ
の日彼の母親が来ていて、それ
を理由に飲みませんでした。母
親の「重石」は、40歳を過ぎて
も重たい様子。しかも、この母
親がただの人ではなかった！
75歳で、シャキツとしていて、
42年間教師をして最後は校長
だったといえます。教科は、数
学。そこで私たちは「同じね」
と言って抱き合ってしまったし
た。13歳で結婚して、16歳で
初めて子どもを生んだ。その
後勉強して教師になったと言っ
たのです。4人の子持ちで、マ
スターは、末っ子でした。

3日目の昼には、私たちは、
空港から移動します。この日シ
ヤクールは、大きな車でレスト
ランの社長をしているお兄さん
と二人で来てくれました。いつ
もはTシャツだったのにこの日
は半そでのYシャツを着ていま
した。「どうして？」と聞いたら
「最後にはいい印象を持っても
らいたいと思って」との答え。
彼も私たちとの交流を楽しんで
くれたことがわかりました。



(続く)

桐鈴川柳(8月の句)

「花・自由吟」



七変化夜空に開くアジサイ花
花吹雪浴びつつ宵の一歩き
花よ花花よりめごいおらが連れ
梅雨に濡れ紫陽花の色七変化
睡蓮の花と蛙のツーショット
花をあげますうまい歌

また聞かせてね
陽を受けて今朝も元気に
野辺の花

踏まれても野草は強く花咲かす
夜な夜なの蜘蛛蝙蝠に肝が冷え
安倍総理一人よがりの自衛権
戦場の話が聞きたい晋三さん
御手洗(みたらい)にひらひら
沈むお賽銭

お手植えの菩提樹の幹
すくすくと

百二歳かくしゃくとして

師の返信(てがみ)
ドクターヘリか今日も二機
空に舞う

選者句

投げ入れの花が活きてる

踊ってる

人の子を叱る教師の自己嫌悪

桐鈴川柳(9月の句)

「休暇・自由吟」

あくびするひねもすわれは
休暇なり
ふと目覚め休みだったと
二度寝する

飛沫あびヨット爽快化粧泣く
いい天気孫と手つなぐ
一年中
たまさかに
八十路来て孫が見守る旅の宿
金も無し脳トレ筋トレ便活だ
食つちや寝で医院通いの
八十路越え

日本晴れベランダで聞く
せみの声

日本晴れベランダで聞く

せみの声



選者句

年休をまた棒にふる妻の供

年金の目減り日本も萎れ気味

桐鈴会の看板

「道歩く人が、『この建物は何だ?』と言っている」、「『工房とんとんどこに?』と尋ねてくる人がわからなくて困っている」、などの声に
こたえて、
鈴懸の前に
大きな看板
をつくりま
した。「目
立っていい
ね」の音が
聞かれます。



お知らせ

「深田よしひろジャズピア/コンサート」

毎年8月13日(鈴懸入居者だったお母さんの墓参りのついで)に夢草堂で演奏して下さっていた深田さんが、今年は急遽体調不良でおいでになれなかったのですが、『よくなったから』と来てくださることになりました。お弟子さんの歌手の方と一緒に来られます。どなたでもお出かけください。11月28日(金)午後2時から、夢草堂にて。入場無料。

編集後記



◆私は今、子どもの自立に悩んでいるところですが、不思議なことに、ヒントが向こうから来てくれたのでした。◆研修に行ったら「自立」に関して触れてくれましたし、雑誌には「子どもの自立」と表紙にドンと掲げられていて、ついつい買ってしまった。◆この両方で言っていたのは、自立の前段階に「孤独」になる時期があること。一人になって自己の内面と向き合い、良いところも悪いところも自分にもあるという意識を持つことが必要なのだそうです。「ありのままの自分」を受け入れることなのですね。◆私にもそんな時があっただろうか。私の子どもはもう孤独を感じたのだろうか。◆介護の世界でも自立という言葉がよく出てきます。弱ってきた自分を、人の手を借りなくてはいけなくなった自分を、受け入れることから高齢者の自立は始まるのではないでしょう。◆桐鈴会の理念のように「迷惑をかけあおう」を言い換えて、支え合っていければいいですね。(小川明子)